

骨髄採取後、肺脂肪塞栓症が疑われた事例について

本年 8 月中旬 非血縁骨髄ドナーからの骨髄採取後、酸素分圧が低下したという健康被害が発生しました。

【経過】

採取終了後に動脈血の酸素飽和度低下を認め、肺 C T スキャンなどの検査により、肺の脂肪塞栓症が疑われました。

ただちに酸素吸入、ステロイドホルモンによる治療が行われ、翌日には呼吸状態が改善しておられますが、今後も注意深い経過の観察が必要と考えられます。

【対策】

当財団では、全国の採取施設に対し「緊急安全情報」を発出しました。

骨髄採取後、長期に渡って腰痛が持続している事例について

本年 3 月下旬 非血縁骨髄ドナーからの骨髄採取後、長期に渡って腰痛が持続しているという健康被害が発生しました。

【経過】

骨髄採取後、疼痛が持続したため、MRI 検査を実施したところ両側腸骨不全骨折、骨髄浮腫との診断がありました。

その後、再度 1 週間入院しましたが、痛みは持続しています。

【対策】

当財団では、原因究明と再発防止の観点から、調査を実施することとなりました。

(2003.8.18 作成)

骨髄採取後、左腸腰部位に血腫を認めた事例について

本年 8 月上旬 非血縁者骨髄ドナーからの骨髄採取後、左腸腰部位に血腫ができるという健康被害が発生しました。

【経過】

骨髄採取翌日、ドナーが左下腹の圧痛を訴えられ、C T スキャンなどの検査を実施したところ、左腸腰筋内に血腫およびガス像が確認されました。

止血剤並びに抗生物質の投与が開始されました。ドナーのヘモグロビン値は、一時 12.8g/dl まで低下（骨髄採取前のヘモグロビン値は、16.1g/dl）しました。

その後、左腹部の圧痛はありますが、歩行は可能で、食欲などの全身状態は良好です。

【対策】

当財団では、全国の採取施設に対し骨髄穿刺の部位と深さに十分注意するよう「緊急安全情報」を発出しました。

また、原因究明と再発防止の観点から、調査を実施することとなりました。